

地震発生

その時、
どうすれば
いいの？

地震が起きたら...

地震(震度5弱程度以上)を感知するとご自宅のマイコンメーターが自動的にガスをシャ断します。あわてず、落ち着いて行動してください。

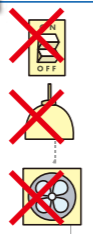
- 1 まず身の安全を**
まず机やテーブルの下に伏せるなど、**身の安全を確保**してください。
- 2 すぐ火の始末**
揺れがおさまったら、**ガス器具の火を消して**ください。
- 3 ガスの臭いを確認**
ガス臭くないかどうか確認してください。

ガス臭いときは...

- 1 窓や戸を大きく開けてください。**

スイッチは入れないで!

火気は絶対に使わないでください。
換気扇や電灯など電気器具のスイッチは、着火源となり大変危険です。



- 2** メーターガス栓を閉め、**すぐ仙台市ガス局へご連絡ください。**

◎ガスもれ、ガス事故等の場合は、仙台市ガス局へ連絡してください。

お客さまセンター ☎ **0800-800-8977**
フリーアクセス(着信者払い、携帯電話・PHSからの利用も可)

受付時間/月曜日～金曜日
8:30～19:00・
土曜日8:30～17:00
(祝日・年末年始を除きます)

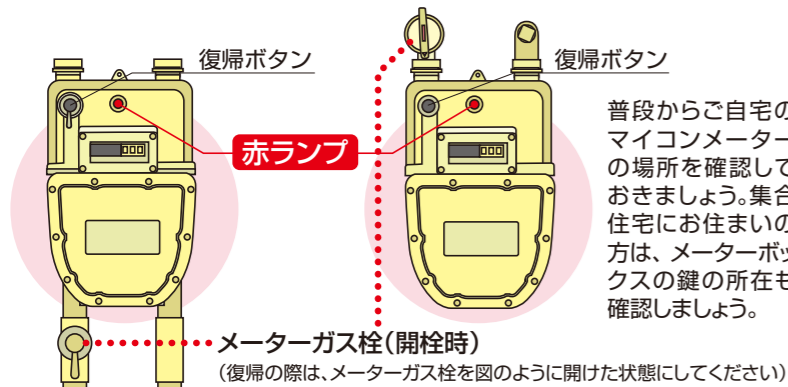
ガス漏れ受付専用電話 ☎ **022-292-6663**
時間外の緊急時連絡先 ☎ **022-256-2111**

365日・24時間
体制でお電話を
お受けしています。

ガス臭くないけど、ガスが出ないときは...

マイコンメーターの表示ランプ(中央上部)をご確認ください。

赤ランプが点滅している時はマイコンメーターがガスをシャ断しています。



普段からご自宅のマイコンメーターの場所を確認しておきましょう。集合住宅にお住まいの方は、メーターボックスの鍵の所在も確認しましょう。

こんな時に
ガスを
シャ断します。

- 地震(震度5弱程度以上)
※地震が起きてもガスを使用していなければシャ断しません。
- ガスもれ
- ガス機器の長時間使用

ガスもれなどの異常がなければ、ご自分で簡単に復帰できます。

マイコンメーターの復帰手順

- 1** ガス栓を開めるか、運転スイッチを切り、全てのガス機器を**止める**。この時、メーターガス栓は閉めないでください。
- 2** メーター左上の復帰ボタンのキャップを左に回して**はずす**。
- 3** 復帰ボタンをしっかりと**押す**。赤ランプが点灯したら、すぐ手を離してください。ランプは再び点滅します。
- 4** 3分
キャップを元に戻して、**約3分間待つ**。
- 5** ランプの点滅が消えるとガスが使えます。

※3分以上赤いランプの点滅が続く時は、ガス機器の止め忘れがないかを再確認し、やりなおしてください。正常に復帰しない場合や赤いランプの点滅が続く時は、仙台市ガス局(上記の連絡先)へご連絡ください。

ガス局の安全・安心への取り組み

東日本大震災では、これまでの地震対策により、地震による製造設備や供給設備の被害は最小限に止めることができましたが、港工場が津波により冠水したことでガスの製造が困難となり、ガスの供給を停止せざるを得ませんでした。

仙台市ガス局では引き続き、港工場の津波対策をはじめ、さらなるガスの安定供給、保安の確保に努めてまいります。

《東日本大震災による供給停止から供給再開まで》

① 平成23年3月11日 供給停止

地震発生から約40分後、地震により約7万戸の供給を緊急停止
地震発生から約2時間後、津波による港工場の冠水のため、全面供給停止

14:46 ●地震発生(宮城野区:震度6強)

14:49 ●太平洋沿岸に大津波警報発令

- 震度の大きい(60カイン以上)エリア約7万戸(約20%)で都市ガスの供給を緊急停止
- 港工場の冠水により受電設備などが損傷し、全面供給停止

港工場の被害状況



② 3月23日 供給再開

新潟パイプラインによる供給を再開

- 海上輸送方式とパイプライン方式の2つの供給方式のうち、パイプライン方式に大きな被害は無し
- 地震によるLNGタンクや供給エリアの主要導管網にも大きな被害は無し

3月23日/災害拠点病院等への供給を再開

24日/一般家庭の被害の少ないエリアから供給を再開

二次災害防止のため一戸毎、安全に開栓作業を実施



③ 4月7日 余震発生(宮城野区:震度6強)

余震による供給停止は一部

- 3月11日の本震と同規模も、供給停止は一部のエリアのみ

地震だけであれば全面供給停止は回避できたことを実証

④ 4月16日 復旧完了

被害が大きい一部地域を除き復旧を完了

- 被害が甚大な一部地域などを除く約31万戸の復旧完了(復旧日数37日) ※供給停止戸数は35.7万戸

参考: 東日本大震災と過去の地震との復旧日数比較(戸数は供給停止戸数)

●宮城県沖地震(S53) ... 14.2万戸/28日
●阪神大震災(H7) ... 85.7万戸/94日

●中越地震(H16) ... 5.7万戸/39日
●中越沖地震(H19) ... 3.4万戸/42日

万一の際にも全面供給停止を避けられる 地震・津波対策を強化し、 さらなる安全・安心を図ります。

安定供給

複数の供給ラインの確保

安定供給のため、海上輸送方式によるLNGとパイプラインによる天然ガスとの複数の供給ラインを確保します。

今後も複数の調達手法を念頭に、原料調達計画の見直しやパイプライン受入地点の多元化についても検討し、安定的な原料確保に努めてまいります。

また、不測の事態に備え、小型LNG船の相互融通など、事業者間の支援・協力体制を強化してまいります。

港工場の津波対策

津波で冠水した港工場は、設備の高上げ、扉の密閉度向上など浸水・冠水防止対策を講じます。



地震・津波対策を進める
港工場



海上輸送方式



JAPEX所有
「新潟～仙台パイプライン」

保安の確保

ガス導管の耐震化

東日本大震災で被害の大きかった地区を優先的に、耐震性の高いポリエチレン管への入れ替えを促進し、災害に強い導管網を構築します。

防災ブロックの最適化

災害時にも供給停止地区を最小限にとどめ、迅速に復旧できるよう、防災ブロックの最適化を進めます。



ポリエチレン管



柔軟性があるため、耐震性が高い



防災ブロック図

緊急時対応

ガス供給監視システムの充実

日々刻々と変動する都市ガス需要に対応するために、ガス供給監視システムにより全ての供給所とガバナ(整圧器)の稼働状況を24時間体制で集中監視しています。

大地震の際には、このシステムから得られるブロックごとの地震計による地震の震度や供給中のガスの圧力の情報を基に被害の著しいブロックを特定し、遠隔操作により最小限の範囲で速やかにガスを供給停止することで二次災害を防止します。

緊急時の出動体制

365日24時間の保安体制をとって緊急事態に備え、出動体制を整えています。

さらに、震度4以上の地震の際には、休日、夜間も職員が出動し、緊急時の体制を強化しています。

早期復旧に向けた全国ガス事業者による相互救援体制

今回の震災では日本ガス協会をはじめとする全国49の都市ガス事業者の方々に復旧隊として活動していただき、ピーク時には約3,700名の応援をいただきました。今後も連携を密にし、早期復旧を実現します。



24時間監視システム



緊急出動体制



全国ガス事業者による救援体制

復興に合わせた 社会的支援

原発事故に端を発した電力需給の逼迫により、企業をはじめ、一般家庭においても節電対策が求められています。このため、国の動向を見据えながら、地域やお客さまの復興状況を踏まえ、エネルギーのベストミックスを軸とした提案により、社会の復興を支えてまいります。

天然ガスの利用拡大

他の化石燃料と比較して環境負荷が少ない天然ガスの利用拡大を促進し、地球環境保全、低炭素社会の実現にも最大限貢献してまいります。

エネルギーのベストミックス

創エネルギー型商品・分散型発電である家庭用燃料電池エネファームやエコウィル、更にはこれらと太陽光発電との組合せによるダブル発電など、都市ガスを活用したエネルギーのベストミックスを推進してまいります。

電力量の削減に貢献

使用電力量の削減の観点から、ガスコージェネレーションシステムやガス空調システムの普及拡大を積極的に推進してまいります。